

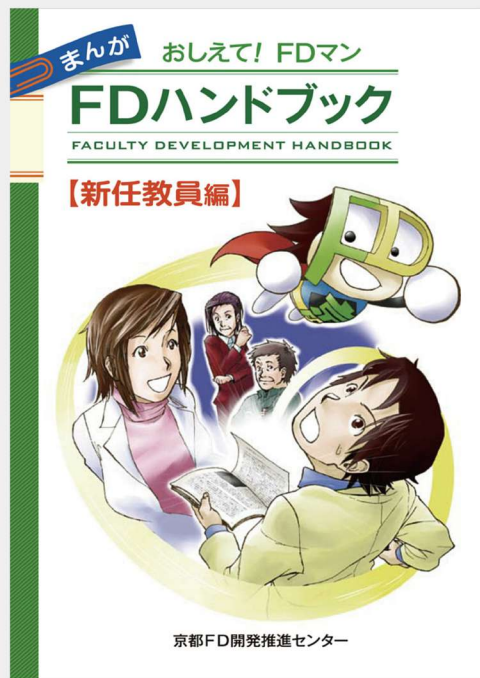
「機能マンガ」という世界

社会の中にある問題や、難解な事柄を解説・提示する。文章で書き起こそうとすると小難しく、長くなってしまいがちなテーマを、マンガに「翻訳」し読みやすく、わかりやすく伝える。そうすることで社会貢献に繋げることが「機能マンガ」の役割です。「機能マンガ」の制作には描く対象への深い理解と、それをマンガとして組み立てる高い構成力が要求されます。対象の取材や調査を通してそれらを養うことは「機能マンガ」のためだけではなく、自身のクリエイターとしての技術力を向上させることにも結びつくでしょう。



マンガ・イラストレーション
デザインスタジオ
Manga & Illustration Design Studio

木下研究室



京都FD開発推進センター

大学教員向けFD推進マンガ



発電所擬人化マンガ 表紙



発電所擬人化マンガ 本文



海外留学生向け防犯マンガ冊子 表紙



医療関係者向け心電図学習マンガ



海外留学生向け防犯マンガ冊子 本文



マンガ表現コース

木下裕士

Hiroshi Kinoshita

デザイン学科 助教

所属団体

日本マンガ学会

京都精華大学芸術学部マンガ学科ストーリーマンガ専攻 卒業
マンガ家さそうあぎらのアシスタントを経て、機能マンガを中心に活動。
多くの企業や官公庁にイラストやマンガを提供している。

専門分野

ストーリーマンガ表現・
機能マンガ



あらゆる物事をマンガを使って表現し、社会に情報を発信してゆく。
娯楽だけではない、新しい可能性がそこにはあります。

ストーリーマンガを描くということには、物語を生み出せる経験と知識、魅力的なキャラクターや情景を作り出す描写力、そして限られたページ数の中に物語をまとめる構成力が求められます。また世の中のニーズに合わせた作品を送り出せるセンスも必要とされます。日本で独自に展開・進化し続けてきたマンガの表現は、今や世界中で楽しめる大きなコンテンツとなりました。マンガという表現技法は娯楽用としてのみに留まらず、さまざまな広告やポスター、パンフレットなどにも取り込まれ、人と企業をつなぐ新たなツールとしても求められるものとなっています。

※マンガ表現コースではグラフィックデザインの基礎的な授業も受講します。

マンガの表現は性別や年齢、国籍を超えて
人に届きます。実はマンガって高度な
情報伝達ツールなんです。

木下裕士（助教、マンガ家、イラストレーター）

紙の上に並ぶコマやキャラクター、記号や描線が意味を持ち、ページを紡ぐことで作者の考えを的確に伝えてくれる。マンガは「わかりやすさ」「伝える力」に優れた表現媒体。海外でも日本のマンガがヒットする理由がそこにはあります。マンガにはアイデアから物語を生み出す力だけではなく、それを伝えるためのデザインや構成力、技術力が必要とされます。